



# 井戸ばた会議

1月号の★募集テーマから

## あなたのまわりの 身近なきずな



身近なきずな、皆さんたくさんお持ちのようですね～。時節柄、多かったのは年賀状にまつわるエピソード。「ボランティアに行った被災地の方から届いた」というご意見もありました。地域の開業医や同僚、利用者にまつわるエピソードなどもお寄せ頂きましたよ。(編集部)

### 二足のわらじの 頼りになる医師

奈良県 鈴木雅也 49歳

ケアマネ一期生として、今まで幾多の困難ケースと呼ばれる人達と接してきました。苦しいことも、つらいことも随分ありました…。それでも、今までやってこれてきたのは「誠実、真摯、迅速」をモットーにケースに向き合ってきたからだと思えます。

「自分の姿勢は間違っていない！」と、改めて認識させてくれたのは、地域のある開業医。ご実家がお寺で、そこの住職も兼業されています。介護保険のことをよく勉強され、ケアマネへの理解も深い方です。

先生は、ケアマネ向けのある研修の中で「支援やアドバイスに手こずる人に対する奥の手は誠意である」とおっしゃいました。これを聞いた時、大変勇気付けられたものです。

もうかれこれ、20年以上のお付き合い。患者さんのマネジメントを依頼して下さることもあり、大変ありがたいです。

### 夫を亡くした私 利用者さんの気遣いに…

茨城県 ケアマネっ子 63歳

夫を亡くした3年前、仕事はどう

にかこなしていたのですが、人に会うことがとても辛かった。そんな中、様々な形で手を差し伸べてくださった肉親や友人、同僚、そして地域の方々。「ありがとう」では足りない程、支えて頂きました。特に印象に残るのは、ある利用者さん。

葬儀を済ませて職場に復帰してからは、プライベートな心情は決して表に出すまいと努めてきたつもりでした。でもある日、訪問先の利用者さんからふいに「何かあった？」と聞かれたのです。隠す余裕もなく、夫を亡くしたことを告げると、「ああ、そうだったんですね…。帰られる時の背中がとても寂しそうだったから」と言われ、はっとしました。公私に線引きは必要。でも、心を許していい時もあるのですね。

### 年賀状が届けてくれた 被災地からの感謝

東京都 森田和道 43歳

私と妻は東日本大震災以降、昨秋まで石巻と南相馬の各避難所でボランティアをしていました。介護サービ



祥清

スに物資輸送と忙しく活動する中、被災者にも多くの仲間ができました。ただ、悩んだのが今年の年賀状です。やはり年賀は…、と思い投函しませんでした。

でも、先方から年賀状を何通か頂いたのです。どの文面も置かれている境遇を受け止め、前を向いて困難を切り開いていく力強さがあふれていました。特に印象的だったのが、仮設で暮らす方からのもの。

「今回のことは、私も家族も、東北に生きる人間にも本当につらい出来事です。でもこうして、皆さんに年賀状を出すことができます」と、出会いへの感謝がつづられていました。過酷な災害が縁となって結ばれたきずなに励まされながら、寒中見舞いをしたための新春です。

### スタッフ、妻からの声援で 退院へ

千葉県 石井英寿 37歳

初めて投稿させていただきます。昨年12月の夜中、宿泊サービスを利用しているご夫婦の旦那さんが嘔吐しました。原因は腸閉塞、救急搬送の後、入院となりました。腸に詰まったものを出すため、鼻からチューブを入れたほか、尿管からはカテーテル、腕には点滴、酸素マスクも装着と、あっという間に管だらけの寝たきりに。おまけに胃ろうになってしまいました。

「早く起きた状態を取り戻し、自宅に帰してあげないと…」。スタッフみんなで、病室の旦那さんを励ましに行く日々が続きました。応援に協力してくれたのは奥さん。ご自身

知ってる人はトクをする カンタン登録で購読料が安くなります ↓ 詳しくはホームページで！

投稿用紙のご利用(p.41、もしくはホームページから投稿)で、掲載された方には、**1,000円の図書カード**を差し上げます。